

## ② 球根生育と芽形成調査

訪問時、既に多くの圃場の掘り取りが済んでいたため、収穫後のビンの中の球根などで可能な限り肥大情報を調査しましたが、CHが平年より良い、NZは平年並み(良い)でした。2024年チリ・ニュージーランドは、春の天候が悪く、霜も発生し、夏まで気温が低めに推移しましたが、その後長く天候に恵まれました。秋に試し掘りを行い、肥大を止めるために地上部を刈り取る判断がされますが、今年は肥大が遅れている印象だったのか、ほとんど刈り取り(Mowing)がされませんでした。結果、選別してみると、秋時点より太っていたという傾向が多かったようです。ショートに関しては、生産見込みと販売のバランスによるため、輸出会社からの今後の結果報告を待ちたいと思います。

**Point** 昨年から大きく改善された点として、春のフロストを各生産者が様々な方法で対処し、ダメージを受けなかったことがあります(1月31日付南半球出張報告をご参照)。特に2023年チリ産は、被害を受け肥大が悪くショートが多かったですが、今年は過去の調査記録(2015~19年の5年平均)と比べ、1cm程度肥大が良い結果でした。これは2023年オランダ産(霜被害でショート多発)と2024年オランダ産(生育前期はやや低温で推移)の対比とパターンが似ており参考になるかと思えます。



◆芽形成につきましては、調査データの平均値で、チリ(平年より太め)とニュージーランド(平年並み)が酷似した結果となっており、両国の品質(力)が拮抗している事が伺えます。

左写真は、今年の個人的“立派な芽オブザイヤー”(笑)です。

茎幅が最も太く、且つ芽長・茎長は平均より短く抑えられ、どっしりした長期保管性も良さそうな印象です。

弊社では球根単価に加え、冷凍賃も安い10・11月納品はもちろんのこと、近年のオランダ産新球入荷遅れを補完する、南半球産の

抑制(2~3月)も球根専用冷凍施設にて、お客様への安定供給に寄与して参ります。

## ③ 信頼と実績は良きパートナーと共に

今年1月(夏)、7月(冬)に両国の生産会社を訪問し、球根圃場の場所や特徴、増産計画や生産性の向上、収穫時の細かい作業の流れなどを改めて確認し、施設や機械による改良点なども見る事ができました。

又、4年前との違いを実感したのは、気候変動とそれに対応する担当者の顔でした。年々激化する気象現象は、露地栽培の農産物にとって脅威であり、時に予測の域を超えて被害を生むことも少なくありません。その中で、それぞれの国と地域の条件や技術を活用し、変化を克服していく姿は自信にあふれています。20年以上南半球の生産地を見てきて、当時から一緒に経験してきた中堅・ベテランの方々への信頼に加え、ここ数年で新たに加わったメンバーのフレッシュさと実直さに、今回の訪問でもご協力をいただきました。生産者数が少ない南半球産は、現場の担当者と継続したコミュニケーションが可能で、生産地を訪問する数少ない輸入会社として今後も交流し、安定した生産と品質が持続されるよう、努力を続けて参りたいと思っております。

以上